



交通安全高齢者輪投げ大会

高齢者の事故防止強調運動に合わせて「交通安全高齢者輪投げ大会」が、大和体育館を会場に開催されました。これは、近年多発している高齢者の交通事故を防止する目的で、高齢者の交通安全意識の高揚を図るために、桜川市交通対策協議会の主催で毎年行われています。大会には、市内から9チーム45人が参加。会場のコース内に設置された交通安全施設通過と輪投げを交互に行い、交通安全施設通過時の得点と投輪の合計得点で競われました。競技の結果、元岩瀬チームが優勝となりました。

やまと幼稚園卒園生が

「わたあめ機」などを寄贈

やまと幼稚園の第2・3期の卒園生から同幼稚園に、わたあめ機やカキ氷機などが寄贈されました。

これは、同園の現PTA会長で第2期の卒園生でもある鈴木政博さんが、自分たちの卒園した幼稚園に恩返しをしたいと、同期や第3期の卒園生に提案したことがきっかけで話がまとまったものです。

「今後、これらの備品をいろいろな行事で使っていただき、子供たちのたくさん笑顔が見られれば嬉しいです。」と、鈴木さんは話していました。



やまと幼稚園にわたあめ機などを寄贈した鈴木政博会長(写真/左)と第3期卒園生の宮川勉さん(写真/右)



清流で涼を感じた

溪流フィッシング

筑波山を源流とし真壁町羽鳥地区を流れる女川で、真壁小学校の児童を対象とした「コミュニケーションスクール 溪流でフィッシング」が開催されました。

これは、「考えよう。よい子が育つ環境を」をスローガンに、青少年育成桜川市民会議真壁支部主催で実施されました。当日参加した、親子連れなど約50人の皆さんは、つくば溪流会の皆さんの協力により放流された、ニジマスやイワナ約350匹の釣りを楽しみました。参加した児童は、「普段、釣りをしないけど、今日は4匹も釣れました。」と、嬉しそうに話していました。

石と灯りの「ラフォーション」

「まかべ夜祭」開催

8月27日(土)・28日(日)の夕暮れ、歩行者天国となった真壁市街地で「まかべ夜祭」が開催されました。

これは、「石とあかり」をモチーフに、真壁町商店会連合会が地元石材組合などの協力を得て毎年行われているもので、今年は9月1日開館を前にした真壁伝承館もライトアップして見学者を楽しませていました。市街地の道路沿いに置かれた石燈籠や手作りのペットボトルの行灯、屋敷内に飾った影絵などの前で写真を撮る見学者も多く、淡い行灯の灯に映った町並みを静かに楽しんでいました。



商工会女性部の皆さんによる影絵作品は幻想的な空間を映していました。

「ぎゅうしよくセンター調べ隊」

北学校給食センターを探検

夏休み期間中の8月4日(木)、「ぎゅうしよくセンター調べ隊」が、北学校給食センターの施設や調理過程を見学しました。

これは、同センターが給食を身近に感じてもらおうと、岩瀬地区の小学校児童と保護者を対象に行ったもので、当日は、親子合わせて計102人が参加。センター職員から、栄養・衛生管理の説明を受けた後、給食を調理する様子を自由見学。また、野菜切りやピザの盛り付けなどの体験もしました。2年連続で参加した児童は、「いろいろ体験ができてとても楽しかったです。」と話していました。



野菜切りにキャベツを入れる参加児童

いのちの学習会

桜川市人権教育講演会

臓器提供者の遺族で作る「ドナーファミリーの会」の田中和行代表を講演に迎え、大和ふれあいセンター「シトラス」で、桜川市人権教育推進委員会・桜川市教育委員会主催による、人権教育講演会が開催されました。

同氏は、27歳の次女の臓器を7人の方へ提供した経緯を語り、その中で「娘の意思を尊重して家族で決断したが、後悔はしていません。娘の臓器は宝石箱で、7人の中で輝いているんだから。」と、話していました。来場した約450人の方は、同氏の「いのち」の講話に耳を傾けていました。



次女も持っていた「臓器提供意思表示カード」の説明をする田中さん

西小埜地区の伝統芸能

女装で踊る「げらおどり」

8月20日(土)、西小埜地区内の児童公園で、地区の親睦と家内安全・豊作を願って「げらおどり(盆踊り)」が行われました。

このおどりは、同地区に約260年前から伝わる伝統芸能で、農民一揆で死罪となった村人の供養が始まりとされています。化粧や着物で女装した男衆が腰を深くかがめ、土をかき回す昆虫の「おけら」のしぐさを取り入れたリズムミカルな踊りです。

当日は、地区の方約100人が参加。けらおどりや岩瀬よいとこ、石投げ踊りなどで暑い夏の夜を楽しみました。



やぐらを囲み、けらおどりを踊る女装した男衆と子供たち

サンホーム真壁でボランティア

グループが盆踊りを指導

特別養護老人ホーム「サンホーム真壁」(真壁町下谷貝地区)で開催された盆踊り大会に、小河原圭子さん(下小幡地区)らのボランティアグループ「ハッピーレッド」が参加し、入所者の皆さんを楽しませました。

これは、最近地域で少なくなってきた盆踊りを復活させようと、同施設が入所者や職員を対象に企画したもので、小河原さんらは、以前から慰問してボランティア活動を行っており、当日も入所者の皆さんに踊りを披露したり、指導したりと優しく接していました。また、夕暮れ時には、入所者の皆さんと夏の風物詩の花火を楽しみました。



施設入所者の皆さんと盆踊りを楽しんだ小河原さんらのボランティアグループ